

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

受託団体名 地球っ子クラブ2000

1. 事業名称

・子どもたちの多様性が生きる街づくり「多文化ハッピープログラム」

2. 事業の目的

・外国にルーツのある子どもたちが、そのことばと文化の多様性を活かしつつそれぞれの能力を発揮して日本社会で活躍できるようになるために、その親の日本語学習(特に、子育て・教育に関する分野)をサポートし、また、日本社会に積極的に出て行く機会(ボランティア活動や地域での文化紹介など)を作る。同時に、子どもたちを取り巻く学校・地域社会などに働きかけ、お互いが知り合い理解し合える機会を作っていくなど、外国籍住民と地域社会がつながる双方向の内容とする。事業を通して、各運営委員との連携を深め、1自主団体として地域で進めてきた事業(例えば就学前の講座等)を行政を巻き込んで広く行えるようにする。ボランティアは個人を隣人として尊重する立場から、行政は多様化する日本社会の安定と向上のために、協働して子育て、教育部門での日本語教育の体制作りに向かう。

3. 事業内容の概要

・地球っ子クラブ2000、多文化子育ての会Coconico、てんきりん(事務局)の三つが協力し合って、また、行政や他団体と連携して目標に取り組む。

1) 運営委員会…関係機関等の連携・協力を推進する検討体制の整備にあたる。外国から来た子どもたちとその保護者の日本語習得の機会がないために起こる教育問題(たとえば、幼稚園や学校のお手紙が理解できない、宿題がみられない、学校のシステムがわからない、子どもとの意思疎通が難しい等)を共有し、事業の実施を後援する。

2) 地球っ子クラブ2000…日本の教育についての親の学びの機会、学校行事体験などを盛り込み、将来のプレスクールのモデルを念頭に置いた親子参加の日本語教室を実施。また、東宮下小を核に、地域の幼稚園、保育園、公民館の懇談会を開いて、関係機関の連携・協力を推進する検討体制の整備にあたる。【取組1】

3) 多文化子育ての会Coconico…子育て中に起こるさまざまな問題を日本語で解決していく力を養う。一方で、学んだ日本語を積極的に活用し、多様な機関等との連携・協力に基づく日本語学習機会の拡充(南浦和図書館のおはなし会、コープみらいとの協働による講座など)にあたる。【取組2】

4) てんきりん(事務局)…活動と活躍のための日本語学習を進め、日本人と外国人が共に学び合う日本語教室・にほんご畑の講座の他、多様な機関等(地域の自然環境団体等)との連携・協力に基づき、日本語学習の成果を活かす機会の拡充にあたる。具体的には、地域でのボランティア活動を企画、リードし、積極的に地域社会に出ていく。【取組3】

5) 講演会…③取組の成果の発信にあたる。4回の講演会を実施して、広く一般市民に外国出身者の現状を発信。隣人としてできることを考える機会とする。さいたま市教育研究所と協働して教職員向け研修事業を行う。【取組4】

4. 事業の実施体制について

●埼玉県国際交流協会 さいたま市教育委員会 埼玉県国際課 さいたま市立東宮下小学校 埼玉県教育局、さいたま市国際観光課: 運営委員会の開催により、子どもたちの状況について理解を深めあい、具体的な施策に結びつける

●さいたま市教育研究所: 外国人の子どもへの教育についての教職員研修を協働して開催。子どもたちに直接接する教員の対応力を高める

●七里公民館、東宮下小: 就学前の子供を持つ外国人保護者のための教室開催の協働により、外国出身の保護者が小学校に入る前に日本の学校について知り、子どもの教育に主体的に関われるようサポートする。

●東宮下小、地域の幼稚園、保育園、公民館: 外国につながる子どもの教育について話し合う地域の懇談会開催により、地域ぐるみのサポート体制をつくる。

●NPO法人ECO・ECO: ボランティア体験を企画、実施。地域社会への参加を促す

●埼玉県国際交流協会メールマガジン 埼玉新聞社 さいたま市子育て支援課多言語情報誌 さいたま市教育委員会 七里公民館: 講演会・活動など事業の広報に協力してもらうことにより、多文化共生の街作りの意識を広める

●さいたま市民活動サポートセンター コープみらい: 活動の場所提供

●さいたま市立南浦和図書館・武蔵浦和図書館・大宮図書館: 多言語による絵本の読みきかせまたはおはなし会＋ワークショップの開催により、親にとっては社会参加、子どもにとっては自分のアイデンティティを確立していく下支え、また、地域の人々にとっては外国出身の人がそれぞれの国の文化と言葉を大切にしながら暮らしていることを知る機会を作る。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	田村 浩司	さいたま市教育委員会学校教育部指導第1課
2	田中 秀幸	埼玉県県民生活部国際課
3	島崎 辰夫	埼玉県国際交流協会
4	安藤 敦史	さいたま市観光国際協会
5	林 春枝	さいたま市立東宮下小学校
6	榎本 敦司	埼玉県教育局市町村支援部 家庭地域連携課
7	郭 娟	地球っ子クラブ2000
8	高柳 なな枝	地球っ子クラブ2000
9	井上 くみ子	地球っ子クラブ2000・多文化子育ての会Coconico
10	芳賀 洋子	地球っ子クラブ2000・多文化子育ての会Coconico

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年5月13日(水) 15:00～17:00	2時間	さいたま市市民活動サポートセンター	榎本敦司氏、田中秀幸氏、島崎辰夫氏、安藤敦史氏、田村浩司氏、高柳なな枝、井上千み子、芳賀洋子、郭娟	・自己紹介 ・団体説明…地球っ子クラブ2000は親子参加型、活動を取り入れた日本語教室。多文化子育ての会Coconicoは、子育て世代中心。てんきりん(事務局)は、地域の人を巻き込んだ教室を展開。 ・今年度の事業説明…1～4の取り組み内容と、どのような体制で取り組んでいくのかを説明 ・意見交換・事業内容の検討…外国につながる子供たちを取り巻く課題の共有。各運営委員がどのように連携していけるか
2	平成27年9月24日(木) 15:00～17:00	2時間	さいたま市市民活動サポートセンター	榎本敦司氏、田中秀幸氏、伊藤結花氏、安藤敦史氏、田村浩司氏、高柳なな枝、井上千み子、芳賀洋子、郭娟	・今年度事業 取組経過報告…特に夏休みに行った取組1「就学前の親のための学習会」について。多言語のチラシを作るなど広報に工夫をしたものの新しい参加者がなかった。情報を届けることの難しさ。 ・改善点に対する意見交換…チラシでなく、直接声をかけることの大切さ。幼稚園や、保育園の生活の中で、学校に入る準備の必要性を感じていないのではないか。したがって、勉強会ではなく、夏休み親子教室のようなもののほうが参加しやすいのではないかと。 ・その他の意見交換…取組4の講演会の取り組みについて。
3	平成28年2月25日(木) 15:00～17:00	2時間	さいたま市市民活動サポートセンター	榎本敦司氏、田中秀幸氏、島崎辰夫氏、安藤敦史氏、田村浩司氏、高柳なな枝、井上千み子、芳賀洋子、郭娟	・今年度事業 取組報告…取り組みへの参加状況。それぞれの取り組みの特徴的な点。成果。 ・事業内容に関する総括・成果と課題…ボランティア団体としての限界。体制整備の必要性。特に子どもの教育を保障するためにまずは保護者への情報提供を確実にすべき。 ・意見交換…伝わる日本語への意識。文化の違いから、伝わっていない例。 ・今後の連携について…教員のための研修会、地域の協議会は大きな一歩。来年度につなげていきたい。

6. 取組についての報告

取組1：保護者を巻き込んだ、子どもの学びを支える環境づくり～子育ての主役はお父さん・お母さん！～

(1)体制整備に向けた取組の目標

子育て、子どもの教育、幼稚園や学校で使用する日本語を中心に、学び話し合うことにより、日本語で考えを発信したり、意見交換や相談ができる日本語力をつけることを目標とする。あわせて、地域・学校・家庭が連携しながら外国人親子、特に保護者を支えることで、保護者が積極的且つ主体的に、自信を持って子育て・教育していける環境づくりを目指す。

(2)取組内容

- (1)親子参加の日本語教室
親子でともに体験できる日本語教室の開催。デイキャンプ・給食づくり・ボランティア体験などを行う。
- (2)就学前日本語講座
小学校に入学する前の子どもをもつ保護者が、日本の学校教育について事前に情報を得、日本語を学びながら子育て・教育について考えていく。また就学前健診から入学、入学後のさまざまな疑問・不明点について気軽に相談できる場、仲間作りを行う。
- (3)外国人保護者と保育園・幼稚園・小学校の教員、公民館との連携
七里地区を中心に、子どもの教育に関わる家庭・学校・地域の人々が課題について話し合い、連携する場を設ける。

(3)対象者

外国人親子(日本語を母語としない親子)
外国にルーツを持つ子どもの教育を支える関係者(保護者を含む)

(4)参加者の総数 48 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 40 人

【出身・国籍別内訳】

中国	12人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。	
韓国	6人	タイ	1人	・マレーシア3人	・モンゴル2人
ブラジル	人	ペルー	人	・シリア3人	・インド5人
ベトナム	3人	フィリピン	人	・カンボジア1人	・バングラデシュ4人
ネパール	人	日本	8人		

(5) 開催時間数(回数) 22時間 (全11回)

(6) 活動の具体的内容 ※参加人数の項、日本語学習者数は()内で表しています

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年7月11日 (土) 10:00～12:00	2	七里公民館	9人 (5人)	就学前日本語講座 チラシ再検討・準備	・困ったときどうするの？ ・朝ごはん、職業、子どものことは、 通知表(親のコメント欄)に何を書けば いいの？	高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子、
2	平成27年7月25日 (土) 10:00～12:00	2	七里公民館	13人 (8人)	就学前日本語講座 ①	・日本人、中国人のアイデンティティー ・マナー、しつけなどについて ・学校の役員について ・地域でのゴミだし、地域活動について	高柳なな枝	小野寺美樹 松澤説子 金子多実枝
3	平成27年7月28日 (火) 10:00～12:00	2	七里公民館	11人 (6人)	就学前日本語講座 ②	・夏休みの宿題 ・絵本『さっちゃんとかッキー』読み聞かせ ・親子でクッキーづくり	高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子、 金子多実枝
4	平成27年8月8日 (土) 10:00～12:00	2	七里公民館	13人 (10人)	就学前日本語講座 ③	・成績表について ・母語 ・多言語絵本の読み聞かせ	高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子、 金子多実枝
5	平成27年5月23日 (土) 10:00～12:00	2	さいたま市見沼 区南部領辻 五 斗蒔「福々の森」	20人 (13人)	ボランティア体験	ボランティア活動で今後の社会参加 につながることを目指す。日本語教 育関係ではない連携団体の方々と日 本語でコミュニケーションをとる。	高柳なな枝 講師 加倉井範子	芳賀洋子 井上くみ子
6	平成27年5月23日 (土) 12:00～14:00	2	さいたま市見沼 区南部領辻 五 斗蒔「福々の森」	20人 (13人)	自然体験	自然体験を通し、植物や動物の生態 を知り、自国との共通点・相違点を語る。	高柳なな枝 講師 加倉井範子	芳賀洋子 井上くみ子

7	平成27年6月27日 (土) 10:00～12:00	2	七里公民館	10人 (9人)	スライムづくり	スライムづくりを通し、色の言い方、 順序を表すことば、指示の表現を学 ぶ。科学の不思議を体験し、理科の 学習意欲につながるようにする。	高柳なな枝	芳賀洋子 井上くみ子
8	平成27年7月11日 (土) 13:30～15:30	2	植竹公民館	11人 (8人)	糸電話 「聞こえる」「聞こえない」	相手を意識して会話する。また、糸電 話づくりを通し、予測し、実験し、比較 するという流れを体験する。	高柳なな枝	小野寺美樹 松澤説子
9	平成27年9月12日 (土) 10:00～12:00	2	七里公民館	4人 (4人)	磁石遊び	シンプルな遊びを通し全員が活動に 参加し、言葉が獲得できることを目指 す。親子の触れ合い、語り合いが多く なるような活動設計にする。理科の 不思議につながる体験活動。	高柳なな枝	芳賀洋子 松澤説子
10	平成27年10月24日 (土) 10:00～12:00	2	「さぎやま記念 公園」野外活動 センター	17人 (13 人)	デイキャンプ	外国出身者にリードしてもらい、日本 語を媒介語とし、さまざまな国の人と 交流し親睦を深める。教室から出て 自然体験をすることで、豊かな成長を 図る。今まで教室に来たことがない人 でも、友人を通じて参加し、社会参 加・今後の教室への参加のきっかけ とする。	高柳なな枝	松澤説子、 井上くみ 子、
11	平成27年11月28日 (土) 13:30～15:30	2	植竹公民館	11人 (9人)	カレンダー作り	月、日にち、曜日の言い方を確認す る。自分の誕生日が相手に伝えら れ、仲間の誕生日がわかる。仲間の 言葉の曜日の言い方を知る。	高柳なな枝	井上くみ 子、 小野寺美樹

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第2回 平成27年7月25日】

就学前日本語講座として、日本での子育てや教育について語り合うことで、日本語力の向上を目指した。就学前の親子を対象にすることで、学校に入学する前に日本語の学校事情などを知り、その準備を親子であることを目的とし、何かわからないことがあれば、今後地球っ子クラブ2000に来て質問などをしていけるような体制作りを目指した。そのうちの1回である。

保護者と子どもたちは別々のグループになり、時間を過ごした。保護者たちのグループで出された話題は以下の通り。それぞれ正解があるわけではないが、他者の意見を聞いたり、自分の考えを話したりすることで考えが深まっていったようである。

- ・日本人、中国人のアイデンティティー
- ・マナー、しつけなどについて
- ・学校の役員について
- ・地域でのゴミだし、地域活動について

子どもたちは小麦粉粘土をしながら造形活動を行い、最後に保護者・子ども全員で、絵本を読んでもらった。最後には『挨拶絵本』を使用し、多言語による読み聞かせを楽しんだ。母親が母語で挨拶を紹介する様子をうれしそうに眺めている子どもの笑顔が印象的であった。



活動例②

【第9回 平成27年9月12日】

親子の日本語教室の活動例。

1. 絵本『くつついた』読み聞かせ

2. 磁石で魚釣り

①磁石にくつつく、くつつかない→部屋の中で、どこに磁石がくつつくか探して歩く。どんなものに磁石はくつつくのか考える。

②魚釣り

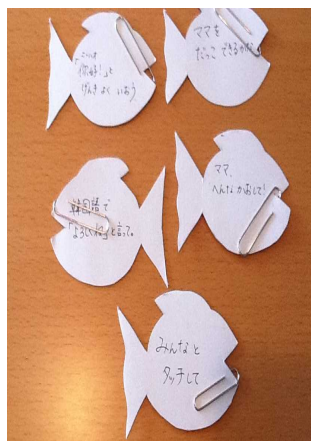
③魚の色塗り、指令書き→魚釣り

3. パネルシアターでお話

自由にお話作り

幼児でも「くつついた～！」と発話が多く、活動にきちんと参加できていた。また就学前の子どもでも磁石のS極・N極の不思議に気が付き、興味津々だった様子。

磁石の魚釣りでは、魚の裏にタスクを書き、釣った魚のタスクを行うこととした。会話では気が付きにくい日本語のミスなどにも注意が向けられた。タスクでは、「みんなとタッチ」など、交流が図れるものも作り、親子みんなと一緒にいき、参加者全員で楽しむ経験ができた。



(8) 目標の達成状況・成果

- 就学前日本語講座では、公民館との連携、外国出身者協力による多言語チラシ作成など成果があった。
- 親子の日本語教室の活動内容では、実験や料理を通し親子のやり取りが密になることを重点に置いた。
実験で失敗することから、なぜ失敗したか考えたり、家でもやってみようという話になったりすることを目指した。また通知表の保護者のコメント欄に何を書けばいいかわからないという相談があるなど、就学にあたっての相談などが出るようになった。
- 協議会には七里公民館 館長、東宮下小学校 校長、七里保育園 園長、七里東保育園 園長が参加してくださった。
現場の先生方が抱えている悩みを知ることができ、また先生方に外国出身者の状況をお伝えすることもでき、有意義な話し合いの場であった。保育園、学校関係者とも密に連絡を取り合い、互いがすぐに連絡し合えるような関係構築が必要である。

(9) 今後の改善点について

- 就学前日本語講座では、新規参加者があまり見られず、チラシの渡し方を含めた周知・広報方法の再検討が必要である。また「日本語は問題ない」「学校のことわからないことはない」と考えている保護者がいる可能性もあるので、来年度はテーマを変え、楽しそうなイベントを開催することにより外国出身親子とつながれるようにすることが効果的ではないかと考えている。
- 親子の日本語教室では、親から子への声掛けなどについて考える機会を持ちたい。子どもの発話をどう膨らませていくのか、叱り方、ほめ方について考えていく機会を持ちたい。

取組2:イキイキ育児は育自

(1)体制整備に向けた取組の目標

親子でイキイキと日本での生活を送る。社会参加、活躍する地域、よりよい親子関係を目指す。
積極的に地域に出かけたり、地域の人を招いたりすることにより、日本語で話す機会を多く作る。
外国人親子は日本語力を高め、地域日本人は外国出身者も地域の一員であることを認識し、安心して子育てをする。

(2)取組内容

- 1)子育て世代の居場所作り、子育てに関する勉強会
仲間を作り、相談やおしゃべり、情報交換。子育てに必要なことを学ぶ。それに伴う日本語の勉強。
- 2)子育て世代の活躍の場
おはなし会、料理教室など、自国のことを発信し、活躍できる場を作る。日本の絵本を母語に翻訳したり、調理順序を日本語で説明できるように、学習・練習をする。
- 3)子育て世代の地域交流の場
地域のイベントに参加したり、親子で出かけたり、地域の人を招いたり、交流の場を増やす。
多くの人と関わり、日本語を聞く機会、日本語で話す機会を多く作る。

(3)対象者

出産を控えた外国出身者、乳幼児を持つ外国出身者と子ども、国際結婚の家族、地域の人

(4)参加者の総数 52+42人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 26+16 人

【出身・国籍別内訳】

中国	10+10(子)	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。
韓国	3+1(子)	タイ	人	・モンゴル3人+4(子) ・アメリカ1人+1(子) ・ロ
ブラジル	人	ペルー	2人+3(子)	シア1人 ・ウクライナ1人 ・フランス1人 ・パキス
ベトナム	2人+2(子)	フィリピン	人	タン0+1(子) ・マレーシア1人+2(子) ・ドイツ0
ネパール	人	日本	26+16(子)	人+2(子)

(5) 開催時間数(回数) 26時間 (全 13 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年4月6日 11:00~13:00	2	一ツ木公園	6+1 0	お花見	春休み中に親子で出かける。桜の花を見ながら、地域の公園で交流をする。日本の文化に触れる。それぞれの国の「春」や「お弁当」について話す。	井上くみ子	小野寺美樹
2	平成27年5月10日 11:00~13:00	2	秋ヶ瀬公園	9+1 3	BBQ	お父さんも一緒に出かける。家族で地域に出かけ、体を動かし、会話を楽しむ。自然に触れる。	井上くみ子	小野寺美樹 橋本メリーナ
3	平成27年6月15日 10:30~12:30	2	コーププラザ浦和	6+4	計画、相談	モンゴル料理のメニュー、材料の相談。おはなし会の練習。子育ての情報交換。	井上くみ子	小野寺美樹
4	平成27年6月29日 10:30~12:30	2	コーププラザ浦和	10+ 10	モンゴルの離乳食作り	モンゴルの離乳食をみんなで学ぶ。一緒に作って食べる。各国の離乳食の話を紹介する。	井上くみ子	田代ドルマー
5	平成27年8月27日 10:00~12:00	2	南浦和図書館	3+4	多言語おはなし会 ワークショップ	日本の子どもたちにいろんな言語を伝える。母親が話す言葉、母親の国を知り、興味を持つ。世界の文字でミニブックを作る。地域の子どもたちとの交流。	井上くみ子	小野寺美樹
6	平成27年9月13日 10:30~12:30	2	さいたまスーパー	4+8	スマイルウーマンフェスタ	活躍する女性のためのイベントに出かける。子育て中の女性の就職、メイク、食育などについて学ぶ。	井上くみ子	

7	平成27年10月19日 10:30～12:30	2	コーププラザ浦和	8+4	子育て勉強会	保育士、助産師さんと話をし、出産時や子育て中の不安や不満をお互いに学ぶ。ベビーマッサージ体験。	井上くみ子	小野寺美樹
8	平成27年11月7日 11:00～13:00	2	浦和競馬場	2+4	ふるさとふれあいフェア	地域のイベントに出店し、自国の料理を紹介する。親子で店先に立ち、地域の人と交流をし、イベントに参加する。	井上くみ子	小野寺美樹
9	平成27年12月4日 10:30～12:30	2	コーププラザ浦和	20+15	国際交流パーティ	地域の日本人親子をも招き、国際交流を図る。多言語による絵本や手遊び、民族衣装や自国の料理を紹介する。地域住民である外国出身者の話を聞き、一緒に話したり考えたりする機会をつくる。	井上くみ子	橋本メリーナ
10	平成27年12月9日 15:00～17:00	2	武蔵浦和図書館	5+2	多言語おはなし会	日本の子どもたちにいろんな言語を伝える。母親が話す言葉、母親の国を知り、興味を持ち認める。	井上くみ子	小野寺美樹
11	平成27年12月21日 10:30～12:30	2	コーププラザ浦和	6+5	計画、相談	1年を振り返り、来年に向けてやりたいことを相談し計画。新年の過ごし方、各国の正月について。	井上くみ子	小野寺美樹
12	平成28年1月19日 10:00～12:00	2	さいたま観光国際協会	7+5	「外国人の子育て」講演会に参加	外国出身の先輩ママの話を聞き、日本での子育てについて学ぶ。質問等も積極的に行い、子育ての不安を軽減する。	井上くみ子	
13	平成28年2月3日 15:00～17:00	2	神明神社	3+4	節分祭	地域の行事に親子で参加し、日本の文化にふれる。地域の人と共に、飛んできた豆や菓子を取り楽しむ。	井上くみ子	

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第5回 平成28年8月27日】図書館多言語おはなし会 ワークショップ

地域の子どもたちに、多言語で絵本の読み聞かせをした。親子で参加することにより、子どもが母親の活躍する姿を見る機会となった。また、母語や母文化についても考える機会となった。事前に日本の絵本を勉強し、自分の国の言葉にしたり、細かい描写や表現について話し、準備をした。リズムカルな言葉遊びや手遊びも取り入れた。地域の子どもたちにもいろんな言語があることを紹介し、他の国と違うところや同じところに興味を持ってもらった。ワークショップでは、自分の知りたい言葉をいろんな言語で書いてもらい自分だけのミニブックを作った。慣れない文字を自分で書いてみたり、教えてもらったりし、交流の場となった。



活動例②

【第12回 平成28年1月19日】

地域の講演会に参加。「外国人の子育て」について学ぶ。子育てを終えた先輩である外国人の話聞き、質問をし、子育てに関する不安を軽減した。待ち合わせ場所、行き方などを事前に調べた。また自国での子育てと日本での子育ての違いについて、話し、事前勉強をしてから参加した。経験者の話なので、説得力があり、日本語で活発にやり取りが行われた。



(8) 目標の達成状況・成果

- ・積極的に親子で出かけることにより、親子の会話も増え、笑顔も多く見られた。
- ・地域の人との交流を多くしたことにより、お互いに学ぶ機会が多かった。
- ・多言語おはなし会では、地域の子どもたちと話し交流を深めたが、母親の参加が少なかったのは今後の課題。
- ・BBQは車で来る場所にしたことにより、日本人父親の参加が増え良かった。
- ・よく話し合うことにより、勉強会や講演会など、子育てについて積極的に学ぶ姿勢が見られた。
- ・勉強や教室ではなく、パーティーや料理などは、誘いやすく参加もしやすいとの声が聞かれた。
- ・多くの人と接することにより、日本語を聞く機会、話す機会が増え、日本語能力の向上がみられた。

(9) 今後の改善点について

- ・孤立している子育て中の外国出身者に、情報を届ける工夫や努力が必要である。
- ・地域の日本人の理解を得るために、働きかけが必要だと感じた。お互いに学びが多いことを認識する必要がある。
- ・自分たち親子だけで、行きたいところへ積極的に出かけられるようになることを目指す。
- ・子どもの年齢にバラつきがあるので、対象年齢別に出かける場所を設定する必要性が出てきている。
- ・外出や就職など、自分のやりたいことができる日本語力をつけ、自信をもって行動できるようになること。

取組3:地域でつながる・広がる「おんなじおんなじってうれしいね！ちょっとちがうって楽しいね！」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国出身者と地域の一般の人が、言葉や文化、世代を超えて学び、活動することにより多文化共生推進をリードしつつ日本語教育の拠点のモデルとなる。外国出身者の活躍の場を積極的に作ることで、日本人社会が変わることも期待する。また、近年増えている10代後半に来日した子どもの実態を把握、問題を広く共有して、日本語教育を地域で支える体制整備に繋げる。(学習を保障する制度作りへの足がかりとする)

(2) 取組内容

1) 外国出身者がリードして外国人と日本人が共に学ぶ講座、教室。

① 絵本を活用した活動・学び

・つながる人・ひろがる世界『多文化・多世代のこぼ・うた・あそび』をテーマに自分たちのパネルを作る。
・図書館でのおはなし会・絵本の勉強会・図書館見学

② 多文化カフェ・にほんご畑

・ボランティア活動「見沼田んぼの保全活動(継続)」の企画
・各国の文化紹介と食文化の講座・外国人と日本人が共に学ぶ日本語サロン開催・やさしい日本語講座
2) 多文化みんなの勉強部屋……健康、医療関係の学習をする。

(3) 対象者

・外国出身の親子 外国籍住民 地域の日本人

(4) 参加者の総数 60 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 26 人

【出身・国籍別内訳】

中国	6人+子2人	インドネシア	1人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。 ・スリランカ 2人 ・パラグアイ1人 ・フランス1人、 ・モンゴル2人+子1人 ・香港1人 ・カンボジア2人
韓国	6人+子1人	タイ	0人	
ブラジル	0人	ペルー	1人+子1人	
ベトナム	2人	フィリピン	0人	
ネパール	1人	日本	34人+子4人	

(5) 開催時間数(回数) _____ 時間 (全 _____ 回)

(6) 取組の具体的内容 ※参加人数の項、日本語学習者数は()内で表しています。子供は除いています。

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 4月16日(木) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	10人 (4人)	にほんご畑	ボランティア体験(見沼田んぼの草取り)企画、立案。日本語を母語としない人からのチラシの効果について。	芳賀 洋子	井上くみ子
2	平成27年 4月22日(水) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	8人+ 子2人 (4人)	絵本の勉強会	自分の国・自分が小さいときの紹介パネルについて。参考『私が小さかったとき』(本園ゆり子作)『かさどろぼう』(ウェットシンハ作)	芳賀 洋子	金子多実枝
3	平成27年 4月23日(木) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	11人 +子2人 (7人)	みんなの勉強部屋	さいたま市主宰の咲いたまつりの準備。パラグアイのダンスを舞台で紹介するため、衣装、音楽、構成、分担などについて。	松澤 説子	大石やす子
4	平成27年 5月14日(木) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	10人 +子1人 (6人)	みんなの勉強部屋	韓国の絵本の紹介と韓国語&日本語による絵本の読み聞かせ+ベトナムの生春巻きの紹介と作り方実技。	松澤 説子	李銀美
5	平成27年 5月21日(木) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	13人 +子2人 (9人)	にほんご畑	生活の日本語1:やさしい日本語について。学校のお手紙(林間学校の持ち物について、わかりにくいものを選んで、どうすれば伝わるか考える)	芳賀 洋子	井上くみ子
6	平成27年 5月27日(水) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	15人 +子2人 (4人)	絵本の勉強会	多言語絵本の読み聞かせ+自分の国のパネルを作成してみる。	芳賀 洋子	金子多実枝
7	平成27年 5月29日(金) 11:00-14:30	3.5	てんきりん (事務局)	12人 +子1人 (8人)	多文化カフェ	生活の日本語2:健康について(食育「毎日の健康な食事」と生活の姿勢)。実技のメニューは実だくさんの汁ものと玄米ご飯。	芳賀 洋子	リリー・チョン
8	平成27年 6月18日(木) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	9人+ 子1人 (5人)	にほんご畑	生活の日本語3:やさしい日本語とは?いろいろな表現があることを、日本語検定の問題から考える。日本人の側の学びのきっかけ。	芳賀 洋子	井上くみ子
9	平成27年 6月24日(水) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	12人 (4人)	絵本の勉強会	パラグアイの刺繍(ニヤンドウティ)の紹介と実技。パネル作成の参考に。	芳賀 洋子	金子多実枝
10	平成27年 9月17日(木) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	14人 +子1人 (9人)	にほんご畑	学校でのお話し内容研修。9月19日のチャレンジスクールに向けて具体的な内容を考える。	芳賀 洋子	李銀美
11	平成27年 10月28日(水) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	15人 +子2人 (7人)	絵本の勉強会	韓国語+広東語+にほんご『わにさんどきっ』にほんご『でぶ』『おやすみ ぼく』韓国語『しろいはうさぎ』鹿児島弁『ねずみのすもう』日本のわらべ歌	松澤 説子	大石やす子
12	平成27年 10月30日(金) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	10人 +子1人 (6人)	多文化カフェ	香港の結納・結婚式の紹介+生活の日本語4:問診票(多言語、やさしい日本語)、面会のルールについて。	芳賀 洋子	リリー・チョン
13	平成27年 11月12日(木) 10:30-13:30	3	てんきりん (事務局)	17人 +子1人 (5人)	にほんご畑	チャレンジスクール、学校での国際理解教室に向けた研修。ペルー料理の紹介と実技。	芳賀 洋子	橋本メリーナ
14	平成27年 11月25日(水) 10:30-12:30	2	てんきりん (事務局)	10人 (5人)	絵本の勉強会	方言の昔ばなし(児島弁、京都弁)から。母語による表現について。自分の言葉がいかにかにその人らしさを表すかを実感でき、母語の大切さを確認できた	松澤 説子	大石やす子
15	平成28年 1月27日(水) 13:30-15:30	2	てんきりん (事務局)	17人 (4人)	にほんご畑	人とのコミュニケーションの基本としての「傾聴」について。外国出身の人でも日本人も、ボランティアとして活躍することを想定した勉強会。	芳賀 洋子	大石やす子
16	平成28年 2月18日(木) 13:30-15:30	2	てんきりん (事務局)	9人(5人)	みんなの勉強部屋	人とのコミュニケーションの基本としての「傾聴」について。外国出身の人でも日本人も、ボランティアとして活躍することを想定した勉強会。	芳賀 洋子	井上くみ子

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第8回 27年5月21日】にほんご畑(外国人と日本人が共に学ぶにほんご教室)

参加…韓国2人、香港1人、中国1人、ベトナム1人、カンボジア2人、ペルー1人+子1 パラグアイ1人 日本6人+子1
内容…テーマはやさしい日本語。①学校の林間学校のお知らせ(持ち物)を見て、難しいと思う言葉や表現を拾い出す。②どうすればわかりやすく、また誤解を招かない表現になるかを考える。①では、しおり(どうして本の間に挟むものを持っていくのか?)、からのさいふ(全部ひらがなで分かりにくい)②では、どうしても必要なものと、どちらでもいいものをわけて書くとかわりやすくなる。などのアイデアが出た。日本人からすると、気づかない指摘が出て日本人にとってもいい勉強になった。日本語話者でない人から積極的な意見が出て、双方の学びになった。得られた結果は、教員研修などでも活用できた。



活動例②

【第11回 27年10月28日】多言語による絵本の勉強会(それぞれが紹介したい絵本を持ち寄り、読み聞かせ。外国出身の人は日本語でも、自分の言葉でもよい。日本語の絵本を自分の言葉に翻訳して紹介することが多い。また、図書館での多言語おはなし会やチャレンジスクールでの紹介の準備でもある。)

参加…中国1人、韓国3人+子1人、フランス1人、香港1人、カンボジア1人、日本人9人+1人

内容…『わにさんどき』韓国語+広東語+にほんご 『でぶ』『おやすみ ぼく』にほんご 『しろいうさぎ』韓国語 『ねずみのすもう』鹿児島弁 『日本のわらべ歌』『韓国のわらべ歌』。日本語の『おやすみぼく』をその場で参加者の言葉に直してみた。
成果…ずっと参加している人と、新しく参加した人では、絵本の読み取り方に大きな差があると感じた。また、絵本の選び方にしても、教育絵本しかイメージにない人もいる。定期的に勉強会に参加することで大きな力になっている。また、今回鹿児島弁の読み聞かせが非常に関心を集めた。自分の方言で読むことによって、のびのびした自分らしさを発揮しているように見えた。このことから、お互いに母語の大切さを確認することができた。



(8) 目標の達成状況・成果

絵本を使った活動が非常に成果があった。勉強会には、毎回15人前後が集まり、日本人も外国人も一緒に学習を進めることができた。絵本が教育の手段としてしか使われていない国の人でも、参加することにより、絵本を楽しむことができるようになったと思う。絵本をきっかけにして、それを各国語に直してみたり、それぞれの文化に話が及んだり、豊かな日本語学習ができた。また、図書館や、チャレンジスクール等で読み聞かせをするときの練習にもなった。

あまり外国人と話したことのない日本人も、外国出身の人と気楽に話す機会ができて、お互いの理解も進んだ。

<学習者の感想>・国にいた時には気づかなかった自分発見があった。人の前で、絵本を読んだり、学校でお話をして喜ばれ、とてもうれしい(韓国)・長い間、友達がいない状態だったが、ここではいろんな人と話せて元気になった(カンボジア)。日本人と話す機会がなかったが、話ができ、日本語に自信ができた(ベトナム)。日本語だけでなく、いろんな好きなことができて楽しい(中国)

(9) 今後の改善点について

絵本の勉強会の他に実施した「にほんご畑」は、外国人と日本人が共に学ぶ日本語教室として運営してきたが、だんだん日本人参加者が少なくなり、普通の日本語教室との違いが明確ではなくなってきた。その原因としては、日本人側に、一緒に学ぶ楽しさと意義を伝えることがうまくいっていなかったと考えられる。日本語の面では、日本人が外国語としての日本語学習についてこられなかったことが挙げられる。外国出身者が日本語力を伸ばすのと同時に、やさしい日本語を含め、日本人側のコミュニケーション力を伸ばし、それによって、がいこくじん日本人の垣根を低くしようと考えたが、なかなか容易ではなかった。今後はにほんご畑の内容を見直して多文化みんなの勉強部屋と一体化し、絵本の勉強会と多文化カフェを核に、多文化共生を視野に入れた日本語教室、外国出身者のエンパワーメント(多言語おはなし会、学校での文化紹介、ボランティア活動、事業へのスタッフとしての活動)に力を入れていきたい。

取組4:つながる人、広がる豊かさ ～多様性が生きる街作り～

(1) 体制整備に向けた取組の目標

多様な背景を持つ子どもたちの現状把握と、彼らが相応の教育を受けるために、取り巻く大人たちにできることをさまざまな切り口から考える。また、学校の教師を対象にした講座と学習会を協働して開催。外国につながる子どもたちへの理解を深め、やさしい日本語を使った外国人保護者とのコミュニケーションの取り方などの研修の機会とする。その結果、さいたま市における外国につながる子どもの学校における日本語教育の環境整備①教師研修の充実と定着、②外国につながる児童のための指導方法検索webシステム作成、③学校におけるやさしい日本語の普及(外国人保護者とのコミュニケーションのための)を目指す。

(2) 取組内容

- 1) 連続講座4回
 - ①米勢治子「多文化共生の街つくりとやさしいにほんご」一般の人の参加をうながす
 - ②志水宏吉「学力の樹」すべての子どもの学びをささえる
 - ③福田マダール有希子+井上千み子「多文化家庭の子育てとことば」
 - ④春原憲一郎「多文化共生・おんなじってうれしいね、ちょっとちがうってたのしいね」
- 2) 夏休み希望研修1回
さいたま市教育研究所主催。講師:高柳なな枝+補助者:芳賀洋子
- 3) 教師力パワーアップ講座(3回)
さいたま市教育研究所主催。講師:高柳なな枝+補助者:芳賀洋子
- 4) さいたま市における教員のための「外国につながる児童のための指導方法検索webシステム作成」に向けた検討会議(2回)
出席:高柳なな枝+補助者:芳賀洋子

(3) 対象者

学校関係者、一般市民、外国出身の市民、日本語教育関係者、他

(4) 参加者の総数 69 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 13 人

【出身・国籍別内訳】

中国	2人	インドネシア	人	※他の国籍の場合は以下に国籍と人数を記載してください。
韓国	4人	タイ	人	・カンボジア 2人
ブラジル	人	ペルー	1人	・イスラエル 1人
ベトナム	1人	フィリピン	人	・マレーシア 2人
ネパール	人	日本	56人	

(5) 開催時間数(回数) 時間 (全 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	2015/9/26(土) 18:30~20:30	2	浦和コミュニティセンター 第10・11集会室	35人	「やさしい日本語」 が使える多文化共生の街	やさしい日本語とは？ やさしい日本語の必要性 やさしい日本語への変換ルール等	米勢治子氏	高柳なな枝 (コーディネーター)
2	2015/10/17/ (土) 10:00~12:00	2	武蔵浦和コミュニティセンター 第7・8集会室	30人	外国にルーツをもつ子どもの 学びを支える —「学力の樹」概念を手がかりに—	学力の構造 日本の学校文化の特徴 大阪の教育文化 力のある学校をつくる	志水宏吉氏	高柳なな枝 (コーディネーター)
3	2015/11/13(金) 18:30~20:30	2	浦和コミュニティセンター 第10・11集会室	18人	多文化家族の“ママは1年生” ～子どものことばとあれこれ～	座談会 多言語絵本 ハンガリー語講座 各国語を見てみよう 学校からの手紙	福田マダール有希子氏 井上千み子氏	(コーディネーターは井上千み子が兼ねました)
4	2015/12/5(土) 13:30~15:30	2	武蔵浦和コミュニティセンター 第3集会室	26人	路地猫のように 油断できる 地域作りをめざして	立ち去らず立ち入らず ワークショップ (1)私を〇〇に例えると… (2)伝言ゲーム (3)異文化体験 (4)21	春原憲一郎氏	松澤説子 (コーディネーター)

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第1回 平成27年9月26日】

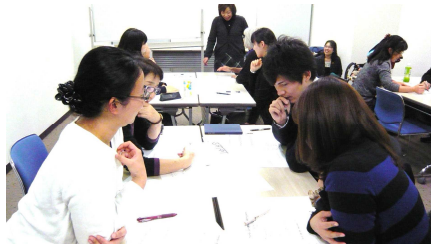
地域でボランティアをしている方、外国出身の方、行政の方、さまざまな立場の方が参加があった。
『『やさしい日本語』が使える多文化共生の街』というテーマでやさしい日本語とは？やさしい日本語の必要性をお話いただき、やさしい日本語への変換ルールも学んだ。実際にどうやってやさしい日本語に直すか考えたり、聞き手の態度によって、話し手がどう感じるかを体感するペアワークも行った。



活動例②

【第3回 平成27年11月13日】

「多文化家族のママは1年生～子どもの言葉とあれこれ～」というテーマでわからない外国語(ハンガリー語)講座にドキドキして、日本語がわからない人たちの気持ちを疑似体験してみたり、ワークショップで言葉を学ぶ難しさ、わかる喜びを体験したりした。
違う文化を持つ人たちがどう理解し合い、交流していけるかそれぞれが考える時間となった。



(8) 目標の達成状況・成果

●スタッフのロコミはもちろん、埼玉日本語ネットワークMLや、運営委員会でのお知らせ、直接会った方にチラシを手渡しするなど有効だった。日本語教育、日本語ボランティア関係者だけでなく、地域住民や行政、学校関係の方の参加もあった。

●総じて満足度の高い講座になった。以下、アンケート内容より抜粋。

【米勢先生講演会】

・先生のご講演の姿勢を拝見して大変勉強になりました。参加者一人一人のことをよく観察されていて、しかもそれが厳しい感じにならないのが良いなあ、さすがだなと思いました。

・最後のワークは楽しかったです。単語だけで話したのに、「あ～、…なんですね。」と聞いてくださり心地よかったです。こういう方がボランティアに向いているなあと思いました。

【志水先生講演会】

・日本の学校文化の特徴を「特徴」と気づかずに内面化・身体化した状態で指導してしまうことの危うさに思い至りました。現場の声や実態により注意を払いたかったです。

・学校構造を木に例える方法は斬新で驚きでした。海外から日本に移植した木(=子ども)の「葉」「幹」「根」どれも大切ですが特に「根」に与える水・養分が何になるかももう少し勉強していきたい。

・自分の中に日本で生きやすくするには、日本に馴染むほうがいいという考えが当たり前にあったことに気づかされました。当人にとっては第一言語の確立の問題や、アイデンティティのこと、日本に馴染む以前の困難があるのだとわかりました。そこへの保障・理解なしに表面的に支援しても本人をエンパワーすることは難しいのだと思いました。

【福田先生講演会】

- ・ハンガリー語やベンガル語のわからない体験ができたことがよかった。
- ・今日のお話の内容を発信する機会をもっと設けてほしい。自分に何ができるかと考える人が増えたらよいと思う。
- ・日本語教室を紹介してほしいという外国人に対し、笑顔で接することで話しやすくなると思う。笑顔で話さないと、外国人の方も「冷たい」という印象を私に抱き、他に相談したいことがあっても相談しないで帰ってしまうかもしれない。
- ・日本語教師をしているので教え子のことを思った。「あいつら苦労してるんだな」と思いました。この気づきを仕事にいかしたい。

【春原先生講演会】

- ・主人(マレーシア人)は、人の話を聞くと、じーっとみつめる、相づちを打たない。これは文化の違いなんだとあらかじめがついた。いろいろな国の人と接する時に、理解することが大事であると、再度考えることができた。
- ・自己紹介から始まるやりとりが苦手なので、今日のはとても居心地がよく、コミュニケーションをとれて実り良いものだった。
- ・子育て中なので子育てに生かしたい。
- ・伝言ゲームのワークで「間違いやすそうなポイント」をいかにわかりやすく伝えるか工夫する必要性を体感できました。特に私のグループは多文化グループだったのでその「間違いポイント」の元ネタ(?)文脈を共有していない場合、さらに難しいということがわかりました。ワークが多く、参加者と楽しく活動できたので2時間あっという間でした！

(9) 今後の改善点について

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">●連続して月に一度の開催であると、会場の予約や誘いが難しかった。●すでにスタッフとして活躍してくれる外国出身の方たちの話を聞いてもらう場・意見交換の場があってもいいのではないか。●学校の教員に参加してもらう為に希望研修などでチラシを配布したが、教員の参加はなかった。2学期も始まり行事も多く忙しい時期だとは思いますが、どのようにすれば忙しい先生方にも子どもたちを取り囲む環境などを理解してもらえる機会になるか、教育委員会と連携し日程など考えていかなければならない。また教育委員会にアプローチし、初任者研修など全員が必須で多文化の子どもたちの現状を知れる研修を設けるよう働きかけたい。 |
|---|

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

外国にルーツのある子どもたちが、そのことばと文化の多様性を活かしつつそれぞれの能力を発揮して日本社会で活躍できるようになるために、1)その親の日本語学習(特に、子育て・教育に関する分野)をサポートし、また、2)日本社会に積極的に出て行く機会(ボランティア活動や地域での文化紹介など)を作る。同時に、3)子どもたちを取り巻く学校・地域社会などに働きかけ、お互いが知り合い理解し合える機会を作っていくなど、外国籍住民と地域社会がつながる双方向の内容とする。事業を通して、各運営委員との4)連携を深め、1自主団体として地域で進めてきた事業(例えば就学前の講座等)を行政を巻き込んで広く行えるようにする。ボランティアは個人を隣人として尊重する立場から、行政は多様化する日本社会の安定と向上のために、協働して子育て、教育部門での日本語教育の体制作りに向かう。

(2) 目的・目標の達成状況

上記1)～4)にそって記述すると、1)取組1では就学前に保護者が学校のことを知る講座を開催。チラシの配布については、七里公民館、東宮下小学校、地域の幼稚園、保育園の協力を得た。しかし、情報提供、または対象者が必要性を感じるアピール力に欠けているようで新しい参加者がなかった。ただ、以前の講座をきっかけに継続して参加している家庭では、親子で製作した絵本にみられるように非常にいい親子関係が育っている。2)取組2、取組3では、外国出身の人が地域で活躍できる場を開拓するとともに、日本語力と自分の力の発掘に力を入れた。関係協力団体は、市内の図書館(多言語で楽しむおはなし会)、さいたま市立の大谷口小学校(チャレンジスクール「世界のひとと友達になろう」、NOO法人ECO、ECO(ボランティア体験)等埼玉県国際交流協会(世界へのトビウ講師)等。すべての取り組みで、関係団体から良い評価を得ている。また、3)取組4の講演会をはじめ、全ての取組を通して地域とのつながり、地域の人たちとの交流、理解を深めることに力を入れた。地域の方の感想<外国のひとと話す機会はほとんどなかったが、ここではいろんな国のひとと話せて楽しい・外国のひとと日本語がみんな日本語がうまくて元気なのでびっくりした・いろんな言葉が楽しめた・知らない言葉や知らない文字がることがわかった>4)多文化の子どもの教育を考える地域の協議会(初)の開催(協力団体は東宮下小、七里保育園、七里公民館、さいたま市教育委員会、県教育局)、また、教員のための研修会(関係団体はさいたま市教育委員会、教育研究所)を継続発展することができた。その中で、現場の教育関係者が持っている悩みの大きさや、理解しきれていないことがあることも共有できた。具体的に何ができるか考え始めたところである。

(3) 地域における事業の効果、成果

体制整備に関して記述する。1)取組の企画に対し、七里公民館では公民館の自主共同事業として取り上げ、公民館だよりに掲載することや多言語版のチラシの印刷・配布などに協力してくれた。ただ、実際の教室運営者である我々と対象幼稚園、保育園とを繋げてくれなかったことが、チラシの効果が届かなかった理由として挙げられる。2)多言語による絵本の発信は、特に効果が大きい。図書館のお話会の中では最も多くの観客を呼んでいて、リピーターの親子も多い。また、出演する外国出身者とその子供にとっても、自分や自分の言葉に自信を持つという効果が顕著である。そのほかの取り組みでも、絵本と多言語を取り入れて、いい評価を得ている。関係団体とは一緒に作り上げる姿勢を確認しつつ(お任せになってしまいやすいので)やっている。3)講演会開催に際しては、各運営委員会の構成団体の協力を得て、広報活動ができた。さらに、講演会に参加してくださる委員もあり、このことは共に事業に取り組む関係ができたことの表れである。こうした関係ができてきたことは市内に50以上も日本語ボランティア団体があるさいたま市では、非常にむずかしいことである。長年の文化庁事業の成果だと認識している。4)体制整備に向けて、最も力を入れているところである。地域の協議会は私たちの呼びかけで初の開催ができた。また、教員のための研修会も、私たちの働きかけで始まったが、一緒に運営していくという体制ができた。参加する教員の中にも、現場の経験をもとに一緒に取り組める人も期待できる状況である。これを核に体制整備につながる一歩ができたと思う。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

・Bプログラムに移行して、連携を重視して活動をしてきた結果、この事業がより広く知られるようになり、多機関と意見交換する機会も増えた。また、今年度は文化庁の日本語教育大会で登壇の機会をいただいたことで、全国レベルの多くの方たちとの有意義な情報交換ができただけでなく、その後、研修会等で発表の機会、雑誌、新聞等からの取材も多かった。そのことが、足元の地域に帰って、活動を認められる根拠になったと感じている。具体的には、今年度のあらたな連携先として、さいたま市のマッチングファンド、保健センター、生協パルスシステムがあり、新たな取り組みとしては、子どもの教育を考える地域の協議会も立ちあげられたことは大きい。教員向けの講座の定着とともに、今後の体制整備の基礎ができたと思っている。運営委員を中心として、各取り組みへの参加、広報の協力、委員会以外でも、相談にのってもらえる関係ができた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

外国出身者が暮らす地域の隣人を含め、行政、教育関係者等、幅広い人たちに、多文化共生や外国出身への理解を深めるために取組4の講座を実施。今年度は、講座の目的が伝わりやすいように4回の連続講座を組んだ。講座の広報については、教育委員会の後援をはじめとして、各運営委員との連携ができた。その中で、多文化子育ての会Coconicoの井上+国際結婚で子育て中の日本語教師マダール氏との講座(第3回目)が非常に新鮮だった。これらのことを踏まえ、来年度は足元のさいたま市で「地域における日本語教育」の自分たちの取組を周知、発信していくことを計画している。そうした取り組みを通して、体制作りにつなげていきたい。

(6) 改善点、今後の課題について

外国につながる子供たちの学習を保障する制度作りを最終目標とし、その達成のために現段階でできることを本事業で実施。
①現状…外国出身の保護者が学校の情報を把握できていないケースがあり、子どもの教育や周りとの関係に支障をきたす場合がある。外国人向けの説明会や情報提供の工夫はされていないまま、放置に近い状況である。
②今後の課題…まずは、学校に入る前に保護者が日本の事情を知る機会を作ることが急がれる。私たちはボランティアとして、就学前の親の学習会を実施してきたが、これは制度として確立しなければならないと考える。情報提供には工夫が必要である。地域で、外国につながる親子の日本語ボランティアや学校での日本語指導員の経験から得たノウハウを持って協力していきたい。
③今後の課題解決に向けた活動予定…1)外国につながる子供たちの教育を考える地域の協議会。2)石井理恵子氏、門美由紀氏の講演会で、本事業の内容、成果なども発表して、制度作りへの環境を作っていく。3)教員のための研修会の充実。

(7) その他参考資料